

(別添4)

【多良間村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等の内容並びにこれらに引き続き政府の議論も踏まえ、

・Society5.0時代の到来など児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中で、各教科等の指導を通して「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理された資質・能力をバランスよく育成し全ての児童生徒の可能性を引き出すために、環境を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現による教育の質の向上を図る

・整備した環境を活用し質の高い学習活動を実施できる教師の指導力を向上させることで児童生徒に対してより良い教育的効果をもたらす

・義務教育9年間を見通しつつ、学習履歴（スタディ・ログ）の蓄積・分析・利活用をはじめ、1人1台端末の効果的な活用等による児童生徒一人一人の特性・学習定着度等に応じたきめ細かな指導をめざす

2. GIGA第1期の総括

1.も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明かになった課題については、その解決策とともに記載する。

- ・通信環境は学校施設内（普通教室、特別教室、体育館）において利用可能
- ・端末活用のルールが柔軟でない
- ・故障時は端末修理サービスに出している期間利用ができなかった
- ・端末整備率は全校において90%となった
- ・ネットワーク速度について文科省が定める当面の推奨帯域を満たす学校は50%にとどまった（中学校は推奨帯域より低い授業に支障は出ていない）
- ・現在の小学校6年生が令和3年度までに受けた授業での活用割合について週3回以上の活用は定着した
- ・現在の小学校6年生が調べる場面でのICT機器の活用割合については調査ができていない
- ・現在の中学校3年生が児童同士でやりとりする場面での機器の活用割合について週3回以上の活用は定着した
- ・1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合について持ち帰り利用が時々利用に留まった（家庭によりNW環境が異なるため今後対応は検討が必要）

3. 1人1台端末の利活用方策

1.及び2.を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、別紙1の「1人1台端末の積極的活用」、「個別最適・協働的な学びの充実」及び「学びの保障」に関するそれぞれの目標を参照されたい。端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。

- ・端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。
- ・「心の健康観察」に関して、1人1台端末で記録ツールやアンケートツールを活用することで、児童生徒の心身の状況を適宜把握し教育支援を適切に実施する。
- ・リーディングスクールの取組実践を参考に、授業支援ツールを導入する。各自の制作物をクラウドもしくは一つの画面に集約し、児童生徒同士で参照できる環境を作ることで、自身の思考をより深め学びの定着をめざす。

文部科学省から提示されている「教育DXに係る当面のKPI」を参考に下記の通り計画する。

KPI	目標値（目標年度）
具体的な方策	
1人1台端末の積極的活用	
毎年度ICT研修を受講する教員の率	100%（R7）

<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県主催の教員向け研修へ派遣し、先導者的立場の教員を増やす。 ・教員研修や校長研修を実施し、1人1台端末利用の意義・目的の理解浸透やICTを活用した授業づくりの実践演習を行い、端末利活用における学校格差や学級格差を減らす。 	
情報通信技術員（ICT支援員）の配置	2校/人（R7）
<ul style="list-style-type: none"> ・要員確保が難しい状況にあるが、ICTヘルプデスクや巡回サポートを活用しつつ配置を目指す。 	
1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	小：100%（R7） 中：100%（R7）
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会などで毎日端末を使用して、今日の予定や一言活動を行う。 ・事例で学ぶNetモラル（情報モラル学習教材）など有料コンテンツの利用ができるよう予算化したのち、コンテンツを活用して、児童生徒が安全に端末やネットを利活用するための知識を醸成し、より柔軟で積極的な活用を図る。 	
デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%（R10）
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒用デジタル教科書を活用し、授業および家庭学習での積極的な活用を目指す。 	

個別最適・協働的な学びの充実	
児童生徒が自分で調べる場面において、1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	小：80% (R6) 中：80% (R6)
まなびポケットの無料コンテンツや、MEXCBTにあるコンテンツを活用し、自分で調べて、学ぶ習慣を促進する。	
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	小：80% (R6) 中：80% (R6)
まなびポケットの無料コンテンツや、MEXCBTにあるコンテンツを活用し、自分で調べて、学ぶ習慣を促進する。	
教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：80% (R6) 中：80% (R6)
まなびポケットの無料コンテンツや、MEXCBTにあるコンテンツを活用し、自分で調べて、学ぶ習慣を促進する。	

※ 本計画の検討に当たっては、現行端末の整備における課題など、GIGA第1期の課題について学校現場にヒアリングを行うことが必須であるほか、文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取組を参考とすることや、共同調達会議を通じて域内の他市町村の取組や課題を参考とすることが強く推奨される。また、検討には、端末の整備担当だけでなく、教育委員会の指導課・指導主事の参画を得ることが望ましい。